

日教上人字は智雄、靜明院と號す。越中の人なり。幼にして京都本禪寺の日宏に師事し、智辯に長す。慶長二年越後本成寺に入る。同八年より建仁寺の西來院に寓して大藏經を閲し、且つ讀み且つ抄して倦むことを知らず、三年にして業を卒ふ。慶長十一年池田輝政の室徳川氏、其母の爲め播磨に青蓮寺を創建するに及びて其禮請に應じ、同十三年寂す、年五十七、寺に藏經閣覽の目錄を傳ふ。

此畫像の異さすべきは、紙本に油塗料を用ゐて陰影を描ける徳川初期の洋畫なること是なり。神田男爵家亦これと同種の洋畫を襲藏す。一は西洋武士二人の圖にして、一は教師と二童との圖なり。今此畫像を以て彼れと參照するに、手法款印共に相同じきも、署名は故らに省筆を用ゐ、且つ款印に掩はれて辨識し難く、前者は信水に近きも、後者は信芳に近し。恐らくは作家の名、前後に依りて異なるらんか。我文學部に藏する京都所司代板倉勝重及び木菴・即非の畫像は並に我彩具を用ゐたるも、洋畫の手法を交へて陰影を分てるところ、亦同時代に於ける洋畫の影響を認むべし。〔三浦〕

日教上人畫像 播磨山崎町青蓮寺所藏



閑山日教尊聖人

日教上人畫像

慶長十三甲九月六日遷化

(京都帝國大學文學部所藏寫眞に據る)